

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年9月3日

【事業年度】 第10期(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

【会社名】 2 1 L A D Y 株式会社

【英訳名】 21LADY Co.Ltd

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤井道子

【本店の所在の場所】 東京都千代田区二番町5番地5

【電話番号】 03 3556 2121

【事務連絡者氏名】 取締役 北川善裕

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区二番町5番地5

【電話番号】 03 3556 2121

【事務連絡者氏名】 取締役 北川善裕

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年6月30日に提出いたしました、第10期(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

4 事業等のリスク

7 財政状態及び経営成績の分析

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

4【事業等のリスク】

(訂正前)

1～3 省略

4 記載なし

(訂正後)

1～3 省略

4 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失608,825千円、経常損失627,178千円を計上しました。

また、当連結会計年度においても、営業損失343,122千円、経常損失336,523千円、当期純損失214,613千円を計上しております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しています。

当社は、当該状況を解消し又は改善すべく、平成20年11月7日開催の取締役会において「経営計画」を策定し、当社グループの主力事業であるヒロタ事業について、「原価率の改善」及び「販売費及び一般管理費率の改善」を中心としたコスト構造の見直しにより損益分岐点を下げ、減収の中でも「直営店舗戦略の見直しによる収益改善」、「卸売の進展と安定化」及び「新商品提案」により利益確保ができる体制を目指し、業績改善に取り組んでおります。

7【財政状態及び経営成績の分析】

(訂正前)

(1)～(3) 省略

(4)来期の見通し

対処すべき課題に記載のとおり、業績改善に取り組んでまいります。

既に6月からは函館開港150周年記念として「函館スイーツフェア」を開催しました。(株)洋菓子のヒロタ直営店舗にて末廣軒、五島軒、昭和製菓等のオリジナリティ溢れる商品を販売し、好評を博しております。また、これにより(株)洋菓子のヒロタのオリジナルシュークリームやシューアイスの販売増にもつながり、相乗効果を発揮しております。

オリジナルシュークリームでは、「甲州の桃<白鳳>」、またシューアイスでは、「アルフオンソマンゴー」を期間限定商品として発売を開始し、好評を得ております。

また、夏季限定商品、「茨城県のメロンシャーベット」及び「高知県大串農園の小夏シャーベット」を発売し、商品ラインナップの拡充を図ってまいります。

このような状況の中で、当連結会計年度末における翌連結会計年度の連結業績見通しにつきましては、連結売上高3,000百万円(当連結会計年度比87.1%)、連結経常利益63百万円(当連結会計年度は336百万円の経常損失)、連結当期純利益52百万円(当連結会計年度は214百万円の当期純損失)を見込んでおります。

(訂正後)

(4)来期の見通し

平成20年11月7日策定「経営計画」の遂行状況、及び今後のヒロタ事業改善に向けた基本方針は次のとおりです。

1 原価率の改善

千葉工場の生産体制の効率化、人件費の削減

平成20年11月以降の工場関連社員の人件費の見直しを実施いたしました。また、平成21年4月より主力商品であるオリジナルシュークリームの生産方法を、抜本的に見直したことにより、人件費及び間接経費の削減に努めています。今後については、平成21年4月以降、新規商材の導入を積極化いたします。これにより、見込み生産・大量ロット生産が可能になるなど、工場人件費及び間接経費の更なる削減を図ってまいります。また、受注から出荷までのリードタイムの短縮化、見込生産における廃棄ロス・追加生産・物流コストの大幅削減を実現することを見込んでいます。

2 販売費及び一般管理費率の改善

不採算店からの撤退

平成20年10月以降、不採算店14店舗の閉店により、店舗運営経費等の削減を行いました。

組織体制変更による管理費の削減

平成20年10月以降、東日本・西日本に存在していた受注窓口を東日本に一本化するなど一部業務統合を行うほか、管理部門人員の削減を実施いたしました。

今後においても、さらに不採算の店舗を退店するとともに、収益性の高い店舗出店、新規商材による物流の見直しを行い、平成21年4月以降の物流費の大幅削減に取り組んでおります。

3 直営店舗戦略の見直しによる収益改善

不採算店舗を撤退したことにより、平成21年4月から社員を優良店舗に集約し、店舗運営の

高度化を図り、既存店舗の売上増大を図ってまいります。

また、出店戦略に関しましては、すでに今期オープンした神戸市営地下鉄・大阪市営地下鉄等の駅立地を中心に、投資対収益を見極めながら出店していく計画です。全体として、直営店舗の売上は、スクラップが進んだことにより平成21年3月期にかけては減収となりますが、平成22年3月期上半期にかけて増収を確保してまいります。

4 卸売の進展と安定化

上記のとおり、新規商材を中心とした販売に切り替える予定をしており、計画生産による在庫を弾力的に振り当てることで、注文から納品までのリードタイムが短縮され、従来応じきれなかった卸売先の緊急注文等への柔軟な対応を実現することで、多くの得意先確保、売上拡大を図ってまいります。

また、東日本、西日本ともに「地産東商」「地産大商」に結びつく取引も新たにスタートしており、更なる取引量の拡大を目指し、季節ギフト等の受注も獲得してまいります。

5 新商品提案

主力商品でありますオリジナルシュークリームについては、引き続き「ディスカバージャパン」に積極的に取り組み、地域の特産品を活かした新商品を提案する一方、素材を一番活かせるシュークリーム以外の商品を模索検討し、自社製造や積極的なコラボレーションを進めてまいります。

6 その他

その他事業における株式会社ハブ及び雷門TP株式会社につきましては、引き続き安定した収益を上げており、カジュアルな中華料理店「上海モダン」を運営する株式会社インキュベーションも平成22年3月期より黒字化を見込んでおります。資金面においては、当社グループ所有の株式及び不動産の有効活用等による、資金調達力により確保していきます。翌連結会計年度以降も当該方針を継続して推進することにより、業績改善に取り組んでまいります。

既に6月からは函館開港150周年記念として「函館スイーツフェア」を開催しました。㈱洋菓子のヒロタ直営店舗にて末廣軒、五島軒、昭和製菓等のオリジナリティ溢れる商品を販売し、好評を博しております。また、これにより㈱洋菓子のヒロタのオリジナルシュークリームやシューアイスの販売増にもつながり、相乗効果を発揮しております。

オリジナルシュークリームでは、「甲州の桃<白鳳>」、またシューアイスでは、「アルフォンソマンゴー」を期間限定商品として発売を開始し、好評を得ております。

また、夏季限定商品、「茨城県のメロンシャーベット」及び「高知県大串農園の小夏シャーベット」を発売し、商品ラインナップの拡充を図ってまいります。

このような状況の中で、当連結会計年度末における翌連結会計年度の連結業績見通しにつきましては、連結売上高3,000百万円（当連結会計年度比87.1%）、連結経常利益63百万円（当連結会計年度は336百万円の経常損失）、連結当期純利益52百万円（当連結会計年度は214百万円の当期純損失）を見込んでおります。